

教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画

（「教職課程の目標」と「教職課程の三つのポリシー」）

■ 教職課程の目標

- 1 教育職員としての使命感や責任感、教育的愛情等を形成する。
- 2 社会性や対人関係能力の伸長を図り、協働する力を形成する。
- 3 学校教育の課題を理解し、解決・貢献のための基礎的な技能を身につける。
- 4 領域・教科の指導内容を理解し、実践的な指導法を身につける。

■ 教職課程の三つのポリシー

◇ 教職課程のアドミッション・ポリシー（各学部・学科に準じて）

- 1 大学教育を通じて発展・向上させる能力

札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部の教職課程は、教育の基礎的内容の理解、領域・教科の指導に関する理論と実践、幼児・児童・生徒の発達に関する知識や技能を修得し、感性豊かな教員養成を目指しています。

- 2 入学者に求める能力

[知識・技能]

高等学校の幅広い学習内容を習得し、教職課程の科目を学ぶための基礎的な資質・能力を身に付けていること。

[思考力・判断力・表現力]

修得した知識を活用して自分なりに思考・判断し、それらを伝え合い協働的に活動する能力を有していること。

[主体性・多様性・協働性]

教育職員免許状の取得に強い意欲をもち、学校教育に貢献したいという目的意識が明確であること。

◇ 教職課程のカリキュラム・ポリシー（各学部・学科に準じて）

札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部の教職課程のカリキュラムは、教育職員免許状の取得に必要な科目を体系的に編成することを基本としています。これらの科目を学ぶことで学生自らが課題を発見し、次の学びにつながるように支援します。また、学修成果の評価の方法は、シラバスに示す通りです。

教育内容については以下の通りです。

- 1 建学の精神を学び、自己と他者の命を尊重し、豊かな情操を身につけ、知徳の陶冶を図ることを学びます。
- 2 領域・教科及びそれらの指導法に関する科目を各学部・学科に合わせて配置します。

- 3 教育の基礎的理解に関する科目を配置します。
- 4 各学部・学科の特性に合わせ、大学が独自に設定する科目を配置します。
- 5 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目を配置します。
- 6 教育実習を通して理論と実践の往還を図るとともに、教育活動に対応する実践力を養います。

◇教職課程のディプロマ・ポリシー（各学部・学科に準じて）

- 1 基礎的汎用的スキル：教育職員に求められる基礎的汎用的なスキルを身につけている。
- 2 自律性：教育職員としての自律をめざし、努力することができる。
- 3 課題発見・社会貢献性：学校教育に関する多様な取組や課題を認識している。
- 4 知識活用：領域・教科に関する専門的な知識や技能を修得し、実践に活用することができる。

■計画

音楽学科では、実践的指導力を身に付けることを目的に、題材の構成方法や学習指導の実践的展開が学修できるよう 2 年次科目「音楽教育法 A・B」、3 年次科目「音楽教育法 C・D」の系統性を図っていることが特色である。また、デジタル教科書や教科書会社が提供するデジタルコンテンツを学習指導に活用することへ取り組んでいる。

美術学科では、実践的指導力を身に付けることを目的に、題材の構成方法や学習指導の実践的展開が学修できるよう 2 年次科目「美術教育法 A・B」、3 年次科目「美術教育法 C・D」の系統性を図っていることが特色である。特に「美術教育法 A・B」では現職教員を講師に迎え、実践的な学修を展開している。

地域社会学科では、実践的指導力を身に付けることを目的に、社会科教育、公民科教育の全体像の理解とともに、学習指導の実践的展開が学修できるよう 2 年次科目「社会科教育法 A・B」、3 年次科目「公民教育法 A・B」の系統性を図っている。

保育科では、カリキュラ・ポリシーに基づき学生一人ひとりの関心に応じて「特別研究 I・II」を履修し、教育目標に示すように得意分野を持ち実践力を身に付けた感性豊かな保育者を養成するよう工夫している。また、1 年次科目「教育実習 I」2 年次科目「幼児教育の方法と技術」など附属幼稚園での観察・参加・グループ実習を通して実践力を身に付けることができる教育体系となっていることが特色である。

上記における目標を、各段階における到達目標としてまとめるならば、以下の表のようになる。

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教員になろうという意欲を高めるとともに、教員としての基礎知識を修得することを目標とする。「教師論」の学修を通して、教員の法的な服務規定を学ぶと同時に、教職の意義を学生一人ひとりが理解することを旨とする。「教育原理」では教育の思想・歴史を通して教育という営みが人間にとってどのような意味をもつのかを理解することを旨とする。「教育方法」では教育方法理論と同時に、実際に教えることの技術を身に付けることを旨とする。
	後期	前期の学修を踏まえ、教師として必要となる具体的知識や学校現場での実践例を学び、教育問題への理解を深めることを目標とする。「教育課程論」では学校教育における各教科等のカリキュラムを学ぶことを通して、生徒がどのように学びを深めるかを学ぶ。「生徒・進路指導論」では具体的に学校教育の諸問題を取りあげ、いじめ・不登校などの問題の背景や取り組みなどについて学ぶとともに、キャリア教育で求められる知識を学ぶ。
2年次	前期	教員としての基礎知識を一層深めるとともに、教科指導力を高めることを目標とする。各科の指導法講義においては、教科指導力を高めるため教材研究の重要性を修得する。「教育心理学」では生徒の発達や学習について知識を得、「教育相談の基礎と方法」では教師に求められるカウンセリングマインドについて学ぶ。
	後期	教科指導力を鍛え上げることを目標とする。各科教育法では教材研究を深め、学生が実際に教壇に立った時に自分で教材を開発できるように具体的な学びについて指導する。「道徳教育の理論と実践」では道徳の時間の学習指導案の作成・模擬授業を行い、教師として教える力を向上させることを旨とする。
3年次	前期	教員としての基礎知識を完成させるとともに、学習指導案作成と模擬授業を中心とした教科指導力の向上を旨とする。「教育制度論」では教育制度の特徴を学ぶと同時に、学校経営がどのようになされているかを学ぶ。各科教育法では学習指導案の作成と模擬授業を行うが、最終的には次年度の教育実習で教える力を育てる。「介護等体験」では社会福祉施設と特別支援学校での体験を通して、コミュニケーション力や対人関係能力の向上を旨とする。
	後期	学習指導案作成と模擬授業を中心とした教科指導力の完成を旨とする。各科教育法では学習指導案の作成と模擬授業を行うが、最終的には次年度の教育実習で教壇に立てる力を完成させる。「教育実習事前事後指導」では教育実習の事前指導を行い、教育実習への心構えを修得させる。「特別活動論」では学級活動や学校行事等が生徒の人間形成に果たす重要性を学ぶ。
4年次	前期	教育実習に行き、これまでの教職課程の成果を発揮することを目標とする。「教育実習事前事後指導」では教育実習の最終的な事前指導を行う。「教育実地研究」で実際に教育実習に行き、教科指導、生徒指導、学校経営を学ぶ。実際に生徒に対して授業をすることで、教員としての使命感・対人関係能力・教科指導力・学級経営など教員としての資質向上を旨とする。
	後期	教員としての資質を完成させることを目標とする。「教育実地研究」では教育実習の事後指導を行い、教育実習から学んだ内容を自己反省する。「教職実践演習(中・高)」では教員としての資質の完成を図り、教員としての使命感・対人関係能力・教科指導力・学級経営の力を学生が備えているかを最終確認する。